

総合計画／実施計画書 兼 事務事業評価シート

事業期間 H21 ～ H23

担当部局	部局名	企画部
	課室名	文化振興室

1. 基本施策名等（基本計画における「基本施策名」等を記入）		
基本施策ID	基本施策名	
5 - 2 - 2	多彩な芸術・文化交流を育み、新たな地域文化を創造し、情報発信する	
重点施策ID	重点施策名	
5 - 2 - 2 - 3	朝倉文夫記念館などの適切な運営	

2. 事業名等			
事業名	大分アジア彫刻展	事業区分	② ①新規 ②継続 ③その他 ()
細事業名		実施形態	② ①毎年 ②隔年 ③その他 ()
事業主体	大分アジア彫刻展実行委員会（県・市共催）		④ ①直営 ②指定管理 ③委託
事業種別	① ①自治事務 ②法定受託事務		④その他（実行委員会（県・市共催））
実施期間	平成 17 年度 ～ 平成 23 年度	根拠法規	大分アジア彫刻展実行委員会設置要綱
各種の計画への反映（＝根拠計画）			事業ID

3. 事業の内容等				
事業の背景 本事業は、郷土が誇る日本近代彫刻の基礎を築いた朝倉文夫の偉業を顕彰し、「豊かな自然と文化を未来につなぐやすらぎ交流都市」を基調イメージとする市の芸術文化を代表する行事として、全国・アジアに情報発信してきた。県としても「豊の国文化国際交流推進事業」として、別府アルゲリッチ音楽祭とともに本彫刻展があげられ、彫刻展の担当職員を県文化スポーツ振興課内に配置している。平成4年から開始した県との共催事業である。	補助事業 名称 補助率 国 1/ 県 1/ その他 1/	起債の種類 ① ② ③		
		事業の目的及び対象 【目的】 新進彫刻家の発掘・育成を行い、市民に質の高い現代彫刻を鑑賞できる機会を提供し、小中学生を中心に彫刻作家によるワークショップを行うことにより、美術的感性を育む。	事業概要 ・アジアの新進彫刻家の登竜門として50歳未満の者を対象とした公募彫刻展で、隔年毎に開催するものであり、2年に1回（ビエンナーレ）の審査を経て選ばれた入賞、入選作品を文化ホールに展示紹介する。 ・地元の小中学生と彫刻家によるワークショップ ・鑑賞会やミュージアムコンサートの開催、県内各地での紹介展	
		【対象】 市民	前年度の評価 E 維持	

4. 予算・決算の状況 (単位：千円)								
財源内訳		H 17	H 18	H 19	H 20	H 21	H 22	H 23～
予 算	国庫支出金							
	県支出金							
	地方債							
	その他							
	一般財源	4,250	7,225	4,250	7,225	4,250	7,225	4,250
	計	4,250	7,225	4,250	7,225	4,250	7,225	4,250
決 算	国庫支出金							
	県支出金							
	地方債							
	その他							
	一般財源	4,250	7,225	4,250	7,225			
	計	4,250	7,225	4,250	7,225			

5. 実績及び達成目標等													
過去3年間の事業実績と課題													
平成18年度			平成19年度				平成20年度				課 題		
【実績】 本展 1回 紹介展 3回 国内作家WS 1回			【実績】 紹介展 県外1回 県内1回 国内作家WS 2回 海外作家WS 1回 (緒方町)				【実績】 本展 1回 紹介展 県外1回 県内 4回 海外作家WS 1回 (三重中)				応募者数が9回展では前回8回展に比べ148点少ない311点に留まった。節目となる10回展では、本彫刻展の魅力を広く伝達し、応募者数の増を図る。		
達成目標と前年度までの進捗状況……事業成果の目標となる指標と目標数値													
活動指標	アジア彫刻展の開催回数												
効率指標	-												
成果指標	毎年行う紹介展への来客数、ワークショップ (WS) の参加人員及び子ども彫刻展の参加人員											単 位 人	
年 度	H 17		H 18		H 19		H 20		H 21		H 22		備 考
種 別	紹介展	WS	本・紹介展	WS	紹介展	WS	本・紹介展	WS	紹介展	WS	本・紹介展	WS	
目標値					556	109	41,700	100	1,000	100	42,000	100	
実績値	2,951	124	23,166	107	556	109	70,609	59					
達成率					100.0%	100.0%	169.3%	59.0%					
備 考													

総合計画／実施計画書 兼 事務事業評価シート

評価対象年度 H20 年度

評価実施年度 H21 年度

担当部局	部局名	企画部
	課室名	文化振興室

6. 前年度の事業評価				評価に関する視点	
事業の 必要性	1 2 3 4 5 低い ← → 高い	評価	3	時代や市民ニーズの変化への対応、事業目的の緊急性、重要性、さらには他の自治体の動向等を踏まえて評価する。	
理由	本来、文化・芸術の範囲は広く、国々によってもそれぞれ異なっている。身近なところで異文化を体験できることは、国際的な思考を醸成する上で有効な手段である。このようなプログラムを体験するには首都圏に行くか、海外へ出向かないと困難である。したがってこの事業は手軽に様々な文化を体験できるということで重要である。				
行政の 与	1 2 3 4 5 不要 ← → 必要	評価	3	この事業は行政が実施しなければならない事業なのか、民間でサービスを提供できないのか等、民間との役割分担を考慮して評価する。	
理由	事業自体の収益性、波及効果による収益向上がないため、民間による実施・継続は困難と思われる。したがって、その特殊性から行政が携わるのが適当と思われる。				
手段の 妥当性	1 2 3 4 5 低い ← → 高い	評価	2	行政がこの事業を行うこととした場合、事業実施の方法は妥当か、効率的な方法なのか等、外部委託や受益者負担等を含めて評価する。	
理由	県と市2者による共催であるが、共催範囲を拡大して取り組むことも考えられ、範囲を広げることにより費用負担の軽減が期待できる。(ただし、相手が賛同してくれることが不可欠。)				
事業の 効果	1 2 3 4 5 低い ← → 高い	評価	3	事業の効果は上がっているのか、事業は効率的に実施できたのか、事業経費は事業実績と比べてどうか等、費用対効果も含めて評価する。	
理由	彫刻展を通じて、市民の文化意識の向上と視野の拡大に貢献しており、アジア圏との国際交流にも寄与している。また、人口当たりの応募数は地元大分が抜きん出ており、作家の育成に貢献している。そして、地元小中学生が海外作家のワークショップに参加することは、外国の文化・芸術の理解を深める貴重な体験となっている。また、国内でもトップクラスの審査員を配していること等から、回数を重ねる毎に応募作品の質が高まっており、展覧会の名声も上っている。				
事業の 算	1 2 3 4 5 減額 ← → 増額	評価	4	全ての行政経費の削減が求められる中で、予算を減額できないか、できないのであればその理由はなぜか等、事業経費の面について評価する。	
理由	芸術文化の理解度を高めるためには、質の高い作品に触れることが不可欠であり、多くの市民に本事業の認知度を高めるためには現在のレベルを維持することが重要であるため、当面事業費の削減は不适当である。今後は国内の展覧会の動向を見る必要があるが、特色あるまちづくりを進める一方、事業内容の見直し等を行いながら事業費を検討する必要がある。なお、22年度は隔年の本展を開催する年度であるため、事業費が増額する。				
人 体 制	1 2 3 4 5 減員 ← → 増員	評価	3	事業経費と同様、職員全体を削減せざるを得ない状況の中で、組織の見直し、グループ制の活用、外部委託等の様々な手法を含めて評価する。	
理由	事業主体である実行委員会の事務は、県・市それぞれの職員が担っており、海外との折衝や紹介展会場の確保など多岐に渡る事務をこなしている。また、本展等では他の部署からの応援を求める等により対応しているが、予算規模からも実行委員会独自の事務員配置は困難である。したがってこれまでの体制が望ましい。				
事業 規模	A B C D E F 廃止 終了 統合 縮小 維持 拡大	評価	E	今後の事業規模の方向性について、事業の必要性、事業経費や担当職員数の増減等を検討し、社会情勢や市民ニーズ等も十分考慮した上で、事業全体としてどのような方向へ進めていくのかを総合的に判断する。	
理由	本事業は、文化・芸術を広く市民に理解してもらうことが重要なポイントであり、鑑賞・体験する機会を多く提供することが効果的な手段の一つである。また、この事業で得た質の高い作品群、人脈などを活用し、本市のPRをより効果的なものとする手段を検討する必要がある。				
その他、特記事項	事業の内容や事業規模に関する意見、補足説明、事業改善の方向性等、特記すべき事項を記載する。				
<p>○ 本事業は、大分県と豊後大野市を主要構成者とする実行委員会が、県と市それぞれ同額の負担金と、各種文化事業団体の助成金、企業の協賛金等を受けて運営している。主な事業としては、2年に1回のコンクール型の展覧会（ビエンナーレ）を実施しており、2年間の予算規模は28,000千円程度である。</p> <p>○ 平成4年から始まった本事業は、平成17年の豊後大野市発足後も引き継がれ、以後2回実施しており、豊後大野市の重要な美術イベントとして市民に浸透しつつある。しかし、この展覧会の存在自体を知らない市民がまだ多くあり、これまで築き上げた実績と名声をより多くの市民にPRし、この彫刻展を身近なものとして認識してもらうことが必要である。そこで、現在朝倉文夫記念公園内に展示している第1回から6回までの屋外彫刻を市内各所に移転展示し、市民が身近で鑑賞できる形態作りを計画している。そして、共催者である県も、県民、特に豊後大野市民がこの彫刻展を認識することが重要であるとの意向を示している。既に10回目の年が始まっており、この10回展が市民にどう受け入れられるか、応募者数の動向とともにその成果により、継続または中止を含めて今後の方向性及び事業内容等を検討する。</p>					
部 長	課 長	班 長	担 当 者	内線 E-mail @bungo-ohno.jp	